

クリスマスの頃から降り出し、積もり始めた雪が学校の辺り一面を包んでおります。まず、朝早くから雪かきを行ってくれている部活動の皆さんや庁務員の山口先生に感謝申し上げます。ありがとうございます。

暑かった夏から、雪積もる冬までの登校日数85日間の長い2学期が、今日で終わります。そして、3月11日には日本に大打撃を与えた東日本大震災、県内でも3月12日には栄村、6月30日には松本と大きな傷跡と悲しみを残した大規模な震災が続いた、平成23年も終わろうとしております。

(「絆」を提示) さて、この字はなんと読むか、わかりますか。(指名) そうです。「きずな」と読みます。(読み仮名を板書)

この「絆」という言葉は、今年、様々な所で使われ、今年を表す漢字一文字にも選ばれました。(板書) ちなみに、この字も「きずな」と読みます。

(板書: 糸、人、牛) 「絆」という字はこの3つの字を元に作られたようです。「牛」という字が入っていますね。実は本来の意味は「牛や馬をつなぎとめる綱」のこのことです。また、「牢屋につなぐ綱」という意味もあったようです。

(板書 ず⇒づ) ですから、正しくは「すに点点」ではなく「つに点点」なんですね。

しかし、現在は一般的に「離れがたい結びつき」とか「人と人との断つことのできないつながり」の意味として使われております。本来の意味とはかなり違っております。

「絆」の右半分は「半分」の「半」の字に似ていますね。あるテレビ番組の中でコメンテーターがこう言うておりました。『「絆」の漢字は、「糸」+「半」に見えるので、人と人との結びつきの「絆」とは、一方が相手の力加減に関係なく引っ張ると糸は切れてしまう。お互いが相手の力加減を考慮しながら(つまり半分の力で)、つながる結びつきの意味ではないか。』「なるほど。」と、私は感心いたしました。

糸をお琴などの弦に例えれば、お互いに同じ力で引き合うことで弦がピンと張り、はじくと素敵な音色が響いてくる。戸隠中で伝統になりつつある「挨拶」に例えれば、「こんにちは」にこだまし合うように「こんにちは」。そして、その後にお互いの間に温かい雰囲気生まれる。その音色や雰囲気こそが、本物の「絆」の証なのではないかと私は思いました。「牛や馬をつなぎとめる綱」や「牢屋につなぐ綱」のように、一方的に自分の都合だけで相手を束縛しようとする中からは、決して本物の「絆」は生まれないものだと思いました。

私たちは簡単に「絆」と言いますが、実はとても難しいものなんだと改めて考えさせられました。〇〇くんの発表にあった紫峰祭の音楽会や運動会では「クラスの絆」があったはず。〇〇さんの発表にあった部活動の問題解決には「吹奏楽部の絆」が必要になるはず。友だちの絆、家族の絆、先生との絆、生徒との絆、戸隠中の絆、戸隠に住む人の絆、日本人の絆等々。そのひとつひとつの「絆」が「牛や馬をつなぎとめる綱」や「牢屋につなぐ綱」ではなく、「離れがたい結びつき」や「人と人との断つことのできないつながり」の意味を持つ「絆」となるよう、それぞれが努力していきたいものです。

さて、明日からは短いですが、年末年始休みとなります。3年生は、〇〇さんの発表にあったように、とにかく「勉強」です。今は、人生において最初に出会う「必死こいて勉強せにゃならん」時期であります。家の人や先生に「どや顔」できるほど、この休みに勉強しなさい。1,2年生は勉強と共に、部活動も頑張りなさい。この寒い時期に体力や技術をどれだけ身に付けたかによって、来年の大会で咲く花の大きさが決まるはず。また、3年生には縁起が良くないのであまり勧められませんが、戸隠の子ですので、スキーやスノーボードでたくさん滑ったり、こけたりして楽しんで欲しいと思います。

最後になりましたが、体調管理には十分気を使い、「けが」ない充実した休みにしてください。では、一人ひとりよいお年をお迎えください。そして、1月10日にはまた、元気な顔で会いましょう。